



# 平成23年3月期 第2四半期決算説明会資料

平成22年11月 8日（大阪）

平成22年11月10日（東京）

**石原薬品株式会社**

（大証二部 4462）

# 目 次

---

## ➤ 第2四半期 決算の概要

(代表取締役社長 竹森 莞爾)

- 平成23年3月期 第2四半期 決算の概要
- 平成23年3月期 第2四半期の営業の状況
- 営業品目別売上高比較
- 平成23年3月期の事業予想
- 平成23年3月期の業績予想のポイント
- 平成23年3月期の事業分野別見通し
- 株主還元・内部留保の考え方
- 中期経営計画について

## 《参考資料》

- 経営の基本方針
- 当社の特徴
- 営業品目別売上高推移  
(平成12年度実績～平成22年度予想)
- 業績の推移と配当
- 総資産・純資産  
1株当たり純資産・自己資本比率の推移
- 展示会出展予定のご案内

## ➤ 決算の詳細

(常務取締役 浅野 真司)

- 損益計算書の概要
- 製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移
- 貸借対照表の概要
- キャッシュ・フロー計算書の概要
- キャッシュ・フローと設備投資額の推移
- 研究開発人員と研究開発費

## ➤ 新技術、新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

- 技術動向、新製品開発の状況
- めっき製品紹介
- 部品紹介

# ➤ 平成23年3月期 第2四半期 決算の概要

(代表取締役社長 竹森 莞爾)

中国を中心としたアジア新興国の需要回復や国内の経済対策などの効果により、各セグメントとも、需要が伸び、売上高及び各利益（四半期純利益を除く）は前年同期を上回る結果となりましたが、投資有価証券評価損及び資産除去債務の計上により特別損失が発生し、純利益は前年同期を下回る結果となりました。

(単位：億円)

	前第2四半期 累計期間(a)	当第2四半期 累計期間(b)	差異 (b)-(a)	修正発表値	修正発表 との差異
売上高	61.9	72.7	10.7	71.6	1.1
売上総利益	16.4	20.1	3.7	19.9	0.2
営業利益	2.1	5.6	3.5	5.3	0.3
経常利益	2.2	5.7	3.5	5.6	0.1
四半期純利益	1.4	1.3	△0.1	1.3	0.0
1株当り四半期純利益(円)	20.90	18.65		18.74	

(平成22年7月16日発表)

## 前第2四半期との差異内容

### ◆ 売上高 (+10.7億円)

製品売上	+5.6億円
商品売上	+5.1億円

金属表面処理剤 及び機器等	+8.5億円
電子材料	0億円
自動車用化学製品等	+0.5億円
工業薬品	+1.7億円

### ◆ 売上総利益 (+3.7億円)

製品売上総利益	+2.6億円
商品売上総利益	+1.1億円

〔\* 金属表面処理剤の伸び〕

### ◆ 四半期純利益 (△0.1億円)

売上総利益	+3.7億円
販管費増	△0.2億円
営業利益	+3.5億円
営業外損益	0億円
経常利益	+3.5億円
特別損益	△2.5億円
投資有価証券評価損	△2.1億円
資産除去債務	△0.4億円
法人税等	△1.1億円
四半期純利益	△0.1億円

## 平成23年3月期 第2四半期の営業の状況

---

### 電子関連分野 売上高 42.7億円（前期 34.1億円 25.0%増）売上構成比 58.8%

アジア市場向けデジタル機器需要の拡大が続いたが、欧米や日本など景気先行き不透明が強まり、薄型テレビやパソコンなど在庫が積み上がりつつ、受注に一部一服感が出てきた。

### 金属表面処理剤及び機器等 売上高 34.0億円（前期 25.5億円 33.3%増）

電子部品用外装めっき液

パソコン、液晶を中心としたバンプ対応、COF対応めっき液の需要が海外を中心に大きく伸長。

化成処理液自動管理装置及び試薬

景気回復により、プリント基板関連、液晶関連で設備投資が活性化、ライン稼働率の向上により装置、試薬の需要伸長。

### 電子材料 売上高 8.6億円（前期 8.6億円 0.3%増）

ニッケル超微粉

ユーザーのセラミックコンデンサの生産は回復基調だが、納入数量減と単価下落により、前年同四半期を下回る。

機能材料加工品

半導体製造装置向け、液晶製造装置向けとも回復基調で部品需要が出てきた。

### 自動車用品分野 売上高 8.2億円（前期 7.7億円 6.4%増）売上構成比 11.4%

軽微なキズ等の補修はしない傾向など、自動車ケミカル全般の市場規模縮小のなか、エアコンフィルター標準装備に伴い、交換時にエアコン洗浄施工を促進。溶接関連は回復傾向。

### 工業薬品分野 売上高 21.7億円（前期 19.9億円 8.6%増）売上構成比 29.8%

電磁鋼板向け、化学、環境向け薬剤の伸長。  
住宅着工件数低迷で建材需要の不振が続いた。

## 営業品目別売上高比較

(単位：億円，%)

	前第2四半期 累計期間 (a)		当第2四半期 累計期間 (b)		差異 (b)-(a)	修正計画 (年間予想)
<b>製品</b> 金属表面処理剤及び機器等	19.3	31.2%	23.7	32.7%	4.4	46.0
電子材料	1.0	1.7%	1.5	2.1%	0.5	3.1
電子関連分野 計	20.3	32.9%	25.2	34.8%	4.9	49.1
自動車用化学製品等	5.2	8.4%	5.6	7.7%	0.4	10.7
工業薬品	0.7	1.2%	1.0	1.5%	0.3	2.3
製品合計	26.3	42.5%	31.9	44.0%	5.6	62.1
<b>商品</b> 金属表面処理剤及び機器等	6.2	10.0%	10.3	14.2%	4.1	18.4
電子材料	7.6	12.3%	7.1	9.8%	△0.5	16.0
電子関連分野 計	13.8	22.3%	17.4	24.0%	3.6	34.4
自動車用化学製品等	2.6	4.2%	2.7	3.7%	0.1	4.7
工業薬品	19.2	31.0%	20.6	28.3%	1.4	40.1
商品合計	35.6	57.5%	40.7	56.0%	5.1	79.2
合計	61.9	100.0%	72.7	100.0%	10.7	141.3

(平成22年7月16日発表)

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

# 平成23年3月期の業績予想

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：億円, %)

	平成22年3月期 (実績)			平成23年3月期			
	上期	下期	年間	上期(実績)	下期(予想)	年間(予想) (修正計画)	伸び率
売上高	61.9	66.2	128.2	72.7	68.6	141.3	110.2%
営業利益	2.1	3.7	5.8	5.6	4.2	9.8	168.1%
経常利益	2.2	4.1	6.3	5.7	4.6	10.3	163.1%
当期純利益	1.4	4.6	6.0	1.3	3.9	5.2	82.3%
1株当り当期純利益(円)	/		87.10	/		74.97	/
1株当り配当額(円)	/		30.00	/		30.00	/

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 平成23年3月期の業績予想のポイント

### 売上高・売上総利益

- (1) アジア中心にデジタル家電需要が高まっており、引き続き金属表面処理剤（めっき液）の輸出を中心に製品・商品とも伸びが期待できる。
- (2) 製品比率のアップが見込まれる。 (42.8% → 44.0%)  
H22.3期実績      H23.3期予想
- (3) 各事業が回復傾向にある。

### 経費・人件費

- ▶ 費用節減に努めつつ、販路拡大等市場開拓に関する費用、研究開発費用は、積極的に投入する。

**研究開発費：875百万円計画（製品売上高の14.1%）前年比109.6%**

- ▶ 新製品開発、新技術開発の促進（銅めっき関連、ナノ粒子関連他）

**設備投資：300百万円計画**

- ▶ 研究開発機器、生産作業等合理化設備、維持更新等

# 平成23年3月期の事業分野別見通し

## 電子関連分野

- ▶ パソコンなど在庫が積み上がった一部の顧客の生産調整の影響もあり、拡大が続いてきた電子部品の受注に一服感が出てきたが一時的な調整との見方もあり、スマートフォンの他、電子機器向けなど需要は底堅く推移するものと見られる。

## 金属表面処理剤及び機器等

- ▶ 電子部品用外装めっき液：
  - ・ ウエハーバンプ向け、液晶関係のCOF向けは順調に推移するものと思われる。
  - ・ ユーザーのめっきラインの補充分売上の確保、国内・海外市場における他社介入を防止。
  - ・ BGA基板市場の動向を注視。
- ▶ 化成処理液自動管理装置及び試薬：
  - ・ ユーザーの動向等の情報収集に努め、コスト低減、合理化、工程改善という視点からユーザーのニーズに対応できる装置開発、提案を積極的に行う。

## 電子材料

- ▶ ニッケル超微粉：競合からの切替えをはかり、数量増を目指す。
- ▶ 機能材料加工品：既存ユーザーの管理の徹底と新たな業界へのPR、販売先の開拓への取り組み。

# 平成23年3月期の事業分野別見通し

---

## 自動車用品分野

- ▶ エコカー補助金の終了で新車販売台数は落ち込むと見られ、カーアフターマーケットも影響を受けると予想されるが、業務用自動車ケミカルを中心に大手自動車メーカー向けOEM商材としてエアコン洗浄剤の拡販や、補修用コンパウンドの新製品導入等により販売増を見込む。

## 工業薬品分野

- ▶ 上記の理由による自動車の国内需要の減退や中国景気の減速懸念もあり中国向け輸出の伸びの鈍化が続くものと見られ、粗鋼生産量も減少が見込まれる。鉄鋼、化学、環境、リサイクル関連の他、現有の取引先への安定供給、新規商材活用による新規市場への展開により売上拡大をはかる。

# 株主還元・内部留保の考え方

---

## 平成23年3月期の配当予想

安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案して、中間配当15円、期末配当金15円の年間配当金30円を予定。

## 株主還元の基本方針

安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、業績に応じ増配を検討するなど弾力的な還元策を図っていく方針であります。自己株式の取得等も資本政策として合わせて検討し、株主の皆さまに満足していただける株主還元を検討してまいります。

## 内部留保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実を図ってまいりますとともに、その活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。  
なお、株主還元と内部留保のバランスについては、当社のおかれた環境を考慮して慎重に検討を継続していきます。

# 中期経営計画について

---

## 基本的な取り組み方針

- (1) 基礎となる3つの分野、4つの事業をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。
  - ① めっき分野の利益率の5%改善
  - ② その他の分野の利益構造の改善
  
- (2) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ第5の事業を立ち上げる。
  - ① 回路形成用銅めっき液の市場へ参入、展開  
(平成24年度には4億円程度見込む)
  - ② 金属ナノ粒子を用いた電子回路形成材料の開発 (数値的には未算入)
  
- (3) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行う。

# 中期経営計画について

## 目標とする経営指標

- (1) 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を目標とし、売上総利益の拡大をはかる。
- (2) 売上高経常利益率10%以上を目標とする。
- (3) ROE（自己資本当期純利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上をはかる。

	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3 (予想)
製品割合 (%)	33.7	40.2	38.9	41.8	42.3	48.8	49.3	45.2	40.7	42.8	44.0
売上高経常利益率 (%)	6.5	3.9	6.4	8.3	10.2	12.3	12.5	10.1	3.2	4.9	7.3
ROE (%)	5.3	2.0	4.6	6.9	9.1	9.6	9.2	6.9	-0.6	4.9	4.1
EPS (円/株)	64.77	24.85	56.73	88.77	126.03	145.09	155.00	121.10	-9.76	87.10	74.97

当社を取り巻く外部環境は日々刻々と変化し、現在のような金融環境の激変期にあっては、ROEの向上とともに企業の持続性も重要な経営課題として認識しております。このような状況のもとでは、強固な財務状況を維持し、株主、取引先等、全てのステークホルダーに安心していただける基盤の整備も重要であると考えております。

# 中期経営計画について（平成22年度～平成24年度予想）

## 数値目標

	平成22年3月期 実績（構成比）	平成23年3月期 予想（構成比） <small>（平成22年7月16日修正発表値による）</small>	平成24年3月期 予想（構成比）	平成25年3月期 予想（構成比）
製品売上高	54.9億円 (42.8%)	62.1億円 (44.0%)	69.1億円 (45.2%)	77.6億円 (45.1%)
商品売上高	73.3億円 (57.2%)	79.2億円 (56.0%)	83.7億円 (54.8%)	94.5億円 (54.9%)
計	128.2億円	141.3億円	152.8億円	172.1億円
経常利益	6.3億円	10.3億円	12.5億円	19.0億円
当期純利益	6.0億円	5.2億円	7.9億円	11.8億円
売上高 経常利益率	4.9%	7.3%	8.2%	11.0%

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

# ➤ 決算の詳細

(常務取締役 浅野 真司)

## 損益計算書の概要

(単位：百万円)

	平成22年3月期 (年間)		前第2四半期 累計期間		当第2四半期 累計期間		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	12,823	100%	6,195	100%	7,272	100%	1,076
売上原価	9,432	73.6%	4,555	73.5%	5,258	72.3%	703
売上総利益	3,391	26.4%	1,640	26.4%	2,013	27.7%	373
販売費及び 一般管理費	2,807	21.9%	1,429	23.0%	1,447	19.9%	17
営業利益	583	4.5%	211	3.4%	566	7.8%	355
営業外収益	79	0.6%	43	0.7%	46	0.6%	3
営業外費用	30	0.2%	29	0.4%	34	0.5%	5
経常利益	631	4.9%	225	3.6%	578	8.0%	353
特別利益	202	1.6%	1	0.0%	0	0.0%	0
特別損失	35	0.3%	2	0.0%	253	3.5%	251
税引前 四半期純利益	797	6.2%	224	3.6%	325	4.5%	101
法人税等	193	1.5%	79	1.2%	196	2.7%	116
四半期純利益	604	4.7%	144	2.3%	129	1.8%	△ 15

\* 売上高 … +1,076百万円

製品売上 … +563百万円  
商品売上 … +513百万円

輸出比率

24.9% → 26.1% → 30.7%  
(前第2四半期) (H22.3期) (当第2四半期)

\* 売上総利益 … +373百万円

製品売上総利益 … +264百万円  
商品売上総利益 … +109百万円

売上総利益率

26.5% → 26.4% → 27.7%  
(前第2四半期) (H22.3期) (当第2四半期)

売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
(当第2四半期)	44.0%	: 56.0%
(H22.3期)	42.8%	: 57.2%
(前第2四半期)	42.5%	: 57.5%

売上総利益率の変化

	製品	商品
(当第2四半期)	48.4%	: 11.4%
(H22.3期)	48.1%	: 10.2%
(前第2四半期)	48.7%	: 10.0%

\* 販売費及び一般管理費 … +17百万円

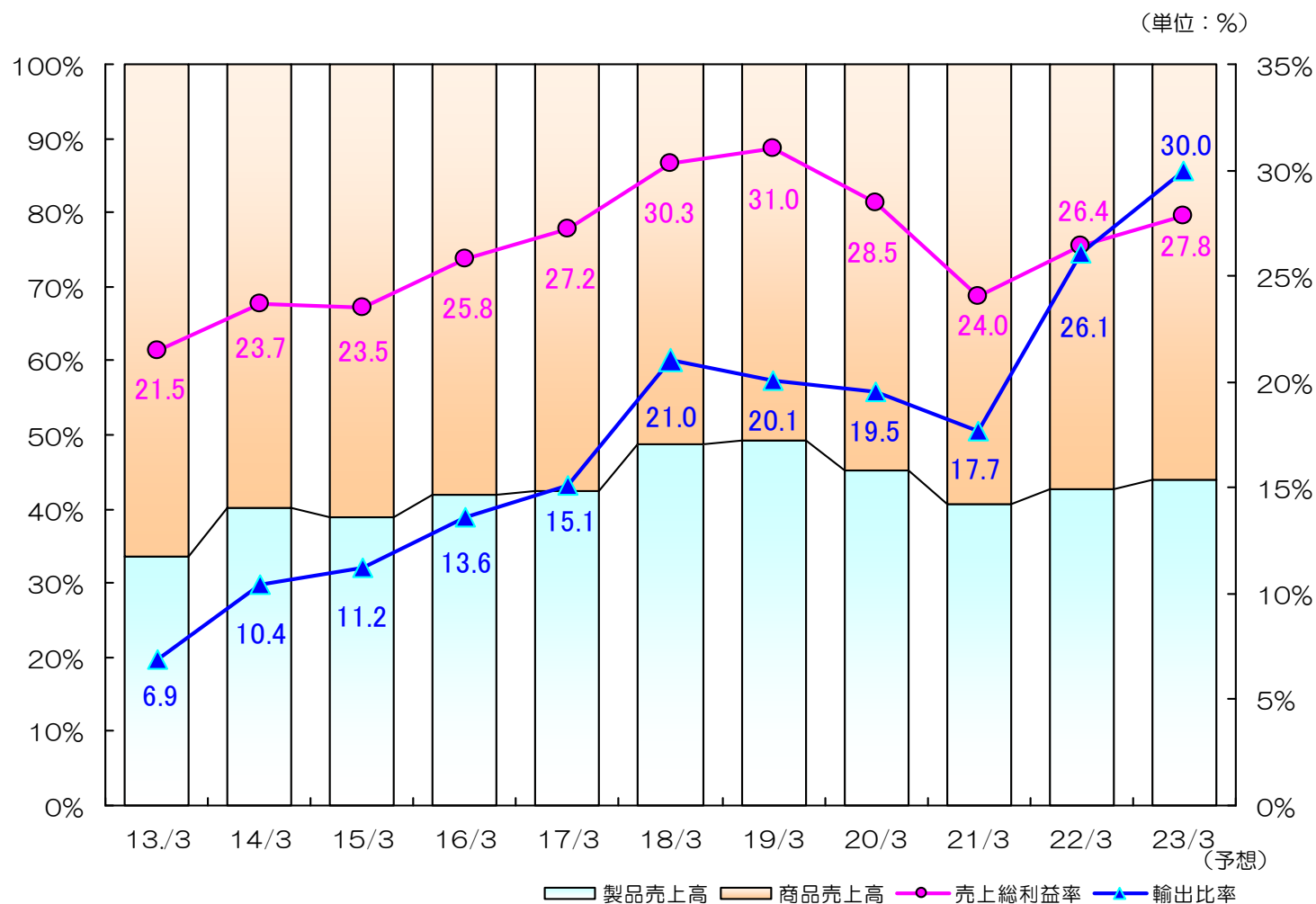
- ① 販売促進費 … △6百万円
- ② 運賃等 … +19百万円
- ③ 旅費交通費 … +12百万円
- ④ 研究開発費 … △33百万円
- ⑤ 販売手数料 … +11百万円
- ⑥ 減価償却費 … △3百万円
- ⑦ その他 … +17百万円

\* 特別損失 … +251百万円

投資有価証券評価損 … +212百万円  
資産除去債務含み基準  
適用に伴う影響額 … +38百万円

\* 法人税等 … +116百万円

## 製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

# 貸借対照表の概要

(単位：百万円)

	平成22年3月期 (年間)	当第2四半期 累積期間	増減金額
(資産の部)			
流動資産	8,925	8,625	△ 300
現預金	3,747	3,870	123
売上債権	3,524	3,605	81
有価証券	672	190	△ 481
棚卸資産	793	828	36
その他	189	129	△ 58
固定資産	7,087	7,631	544
有形固定資産	2,678	2,709	31
無形固定資産	30	39	9
投資その他の資産	4,378	4,882	504
資産合計	16,012	16,256	244
(負債の部)			
流動負債	3,050	3,199	149
仕入債務	2,326	2,464	138
1年以内返済予定 長期借入金	26	38	12
その他	698	696	△ 2
固定負債	425	526	101
長期借入金	—	20	20
その他	425	506	81
負債合計	3,475	3,725	250
(純資産の部)			
純資産合計	12,536	12,530	△ 6
負債・純資産合計	16,012	16,256	244

## 主な資産・負債の増減内容

- \* 現預金・・・ +123百万円
- \* 売上債権・・・ +81百万円
- \* 有価証券、投資有価証券・・・ △74百万円
  - ① 償還 △556百万円
  - ② 運用 +719百万円
  - ③ 評価替 △237百万円
- \* 棚卸資産・・・ +36百万円
  - ① 商品 +9百万円
  - ② 製品 △32百万円
  - ③ 原材料 +34百万円
  - ④ 仕掛品 +20百万円
- \* 流動資産（その他）・・・ 前渡金 △58百万円
- \* 有形固定資産・・・ +31百万円
  - ① 設備投資 161百万円
  - ② 減価償却費 134百万円
- \* 仕入債務・・・ +138百万円
- \* 流動負債（その他）・・・ △2百万円
- \* 固定負債（その他）・・・ +81百万円
  - ① 資産除去債務 +38百万円他
  - ② 預り保証金 +20百万円他
  - ③ リース債務 +10百万円他

## キャッシュ・フロー計算書の概要

現金及び現金同等物の増加・・・129百万円（第2四半期末残高 3,867百万円）

▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー … 492百万円

減価償却費 144百万円、売上債権増加 81百万円  
仕入債務増加 138百万円、法人税等支払 218百万円等

▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー … △258百万円

投資有価証券取得による支出 714百万円、売却・償還による収入 551百万円等  
固定資産取得による支出 84百万円

▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー … △90百万円

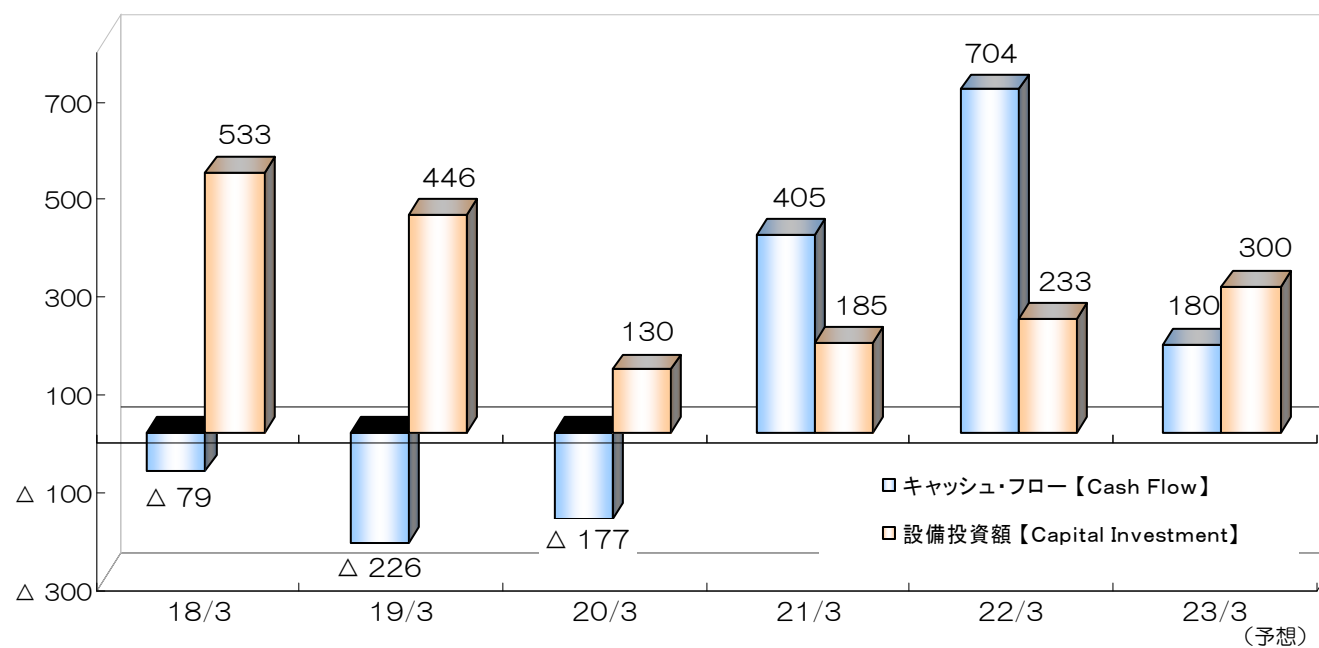
（単位：百万円）

	前第2四半期 累計期間	当第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	705	492
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 205	△258
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 148	△ 90
現金及び現金同等物の増減額	363	129
現金及び現金同等物の期首残高	3,033	3,738
現金及び現金同等物の期末残高	3,397	3,867

# キャッシュ・フローと設備投資額の推移

(単位:百万円)

	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3 (予想)
キャッシュ・フロー【Cash Flow】	△ 79	△ 226	△ 177	405	704	180
設備投資額【Capital Investment】	533	446	130	185	233	300
減価償却費【Depreciation Expenses】	213	239	252	270	259	317



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 研究開発人員と研究開発費

	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3 (予想)
従 業 員	161	180	182	178	183	182	189
研究開発人員	43	53	55	58	62	63	70
割 合	概ね1/4が研究開発要員 ⇒ 1/3へ						

(単位：百万円)

研究開発費	559	639	680	724	770	798	875
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	50	54	104	111	68	117	140
製品売上高 研究開発比率	8.6%	8.7%	9.1%	10.0%	14.2%	14.5%	14.1%

研究開発型事業の多い当社では、守秘義務契約により進められているプロジェクトが多く、それら詳細情報の開示には制限が課せられております。

# ➤ 新技術・新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

---

## 技術動向

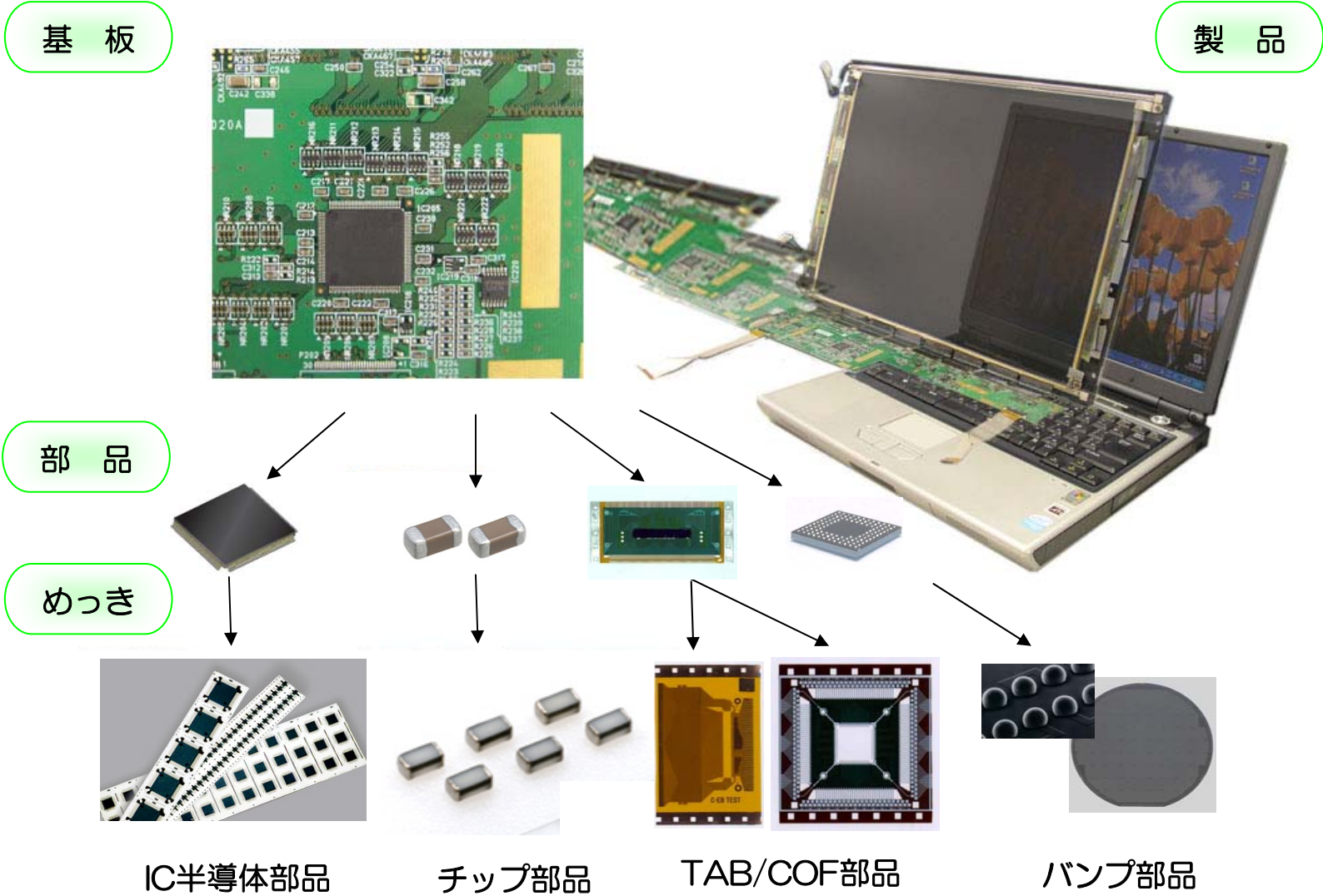
- はんだめっきの技術動向

## 新製品開発の状況

- 銅めっきの研究。
  - ・回路形成用銅めっき ⇔ 製品化し市場展開へ。
  - ・その他
- ナノ金属を用いて新しい電子回路の形成材料をつくる研究。
  - ・実用化を目指した応用研究段階にある。

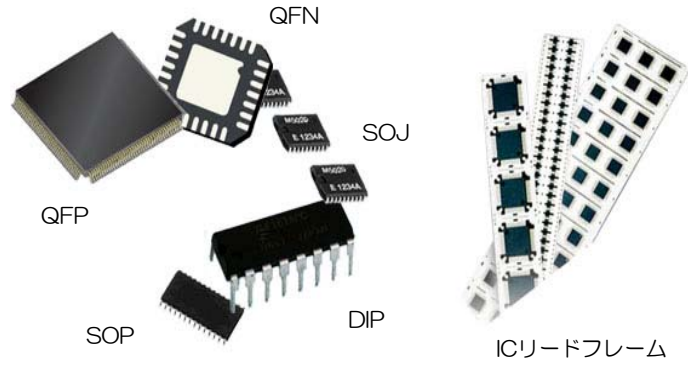


# めっき製品紹介

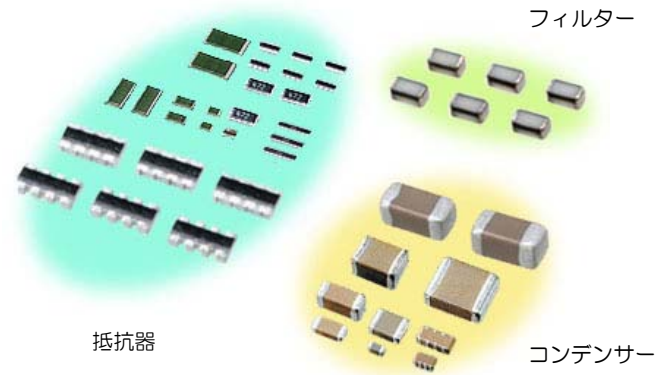


# 部品紹介

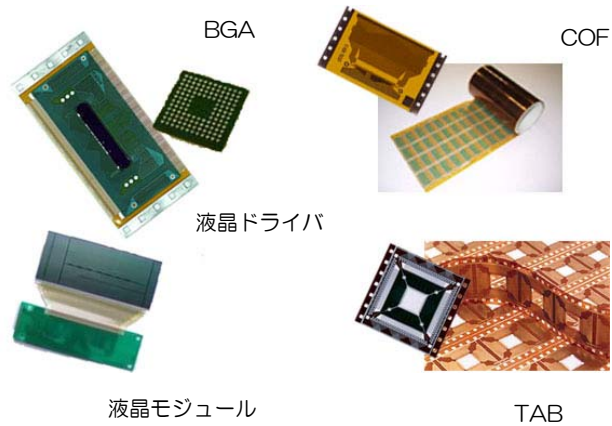
## IC半導体部品



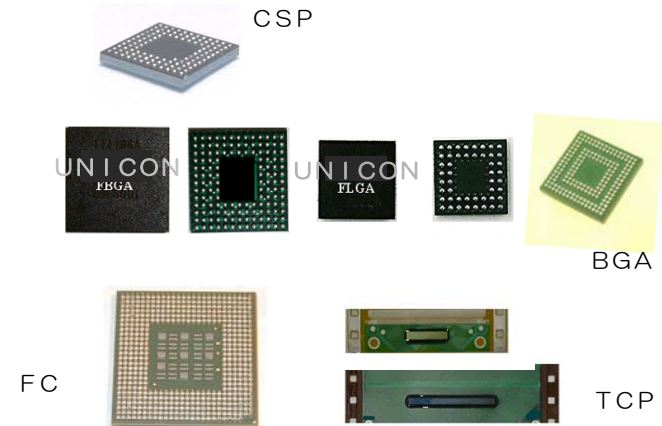
## チップ部品



## TAB/COF部品

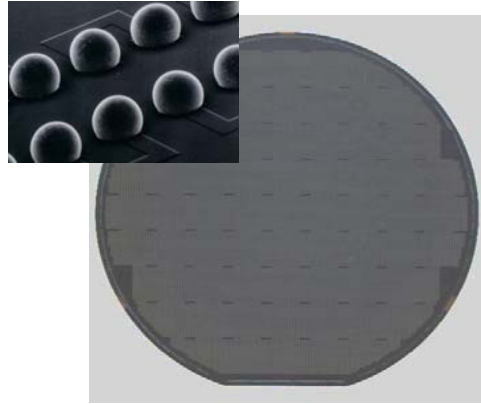


## バンパ使用部品

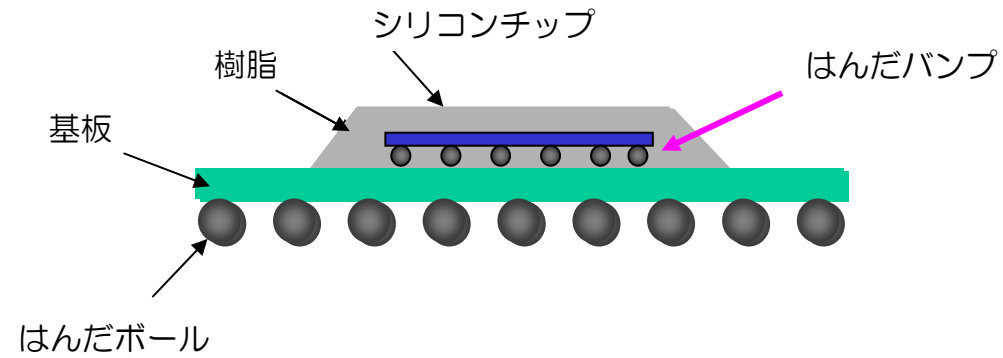


# はんだバンプを使用したBGAパッケージの構造

---



ウェハー



## ▶ 参考資料

---



- 経営の基本方針
- 当社の特徴
- 営業品目別売上高推移（平成12年度実績～平成22年度予想）
- 業績の推移と配当
- 総資産・純資産  
1株当たり純資産・自己資本比率の推移
- 展示会出展予定のご案内

# 経営の基本方針

---

## 経営の基本方針

- ▶ 当社は自己開発・商品開発・市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。
- ▶ このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

全てのステークホルダーの満足度向上

# 当社の特徴

## 事業領域

- ▶ 界面化学を中核技術に3つの分野で4つの事業を展開  
「全天候型経営」による事業リスクの分散

## ニッチ市場で高い占有率

- ▶ はんだめっき液で国内トップシェア
- ▶ 鉛フリー製品（環境配慮型製品）

## 研究開発型企业

- ▶ 強固な研究開発体制
  - ① 全従業員の1/3程度を研究開発人員に充てる
  - ② 研究開発費 ⇄ 売上高の増減により変動するが、概ね製品売上高10%程度を投入する
  - ③ 各大学・試験所との連携による研究開発

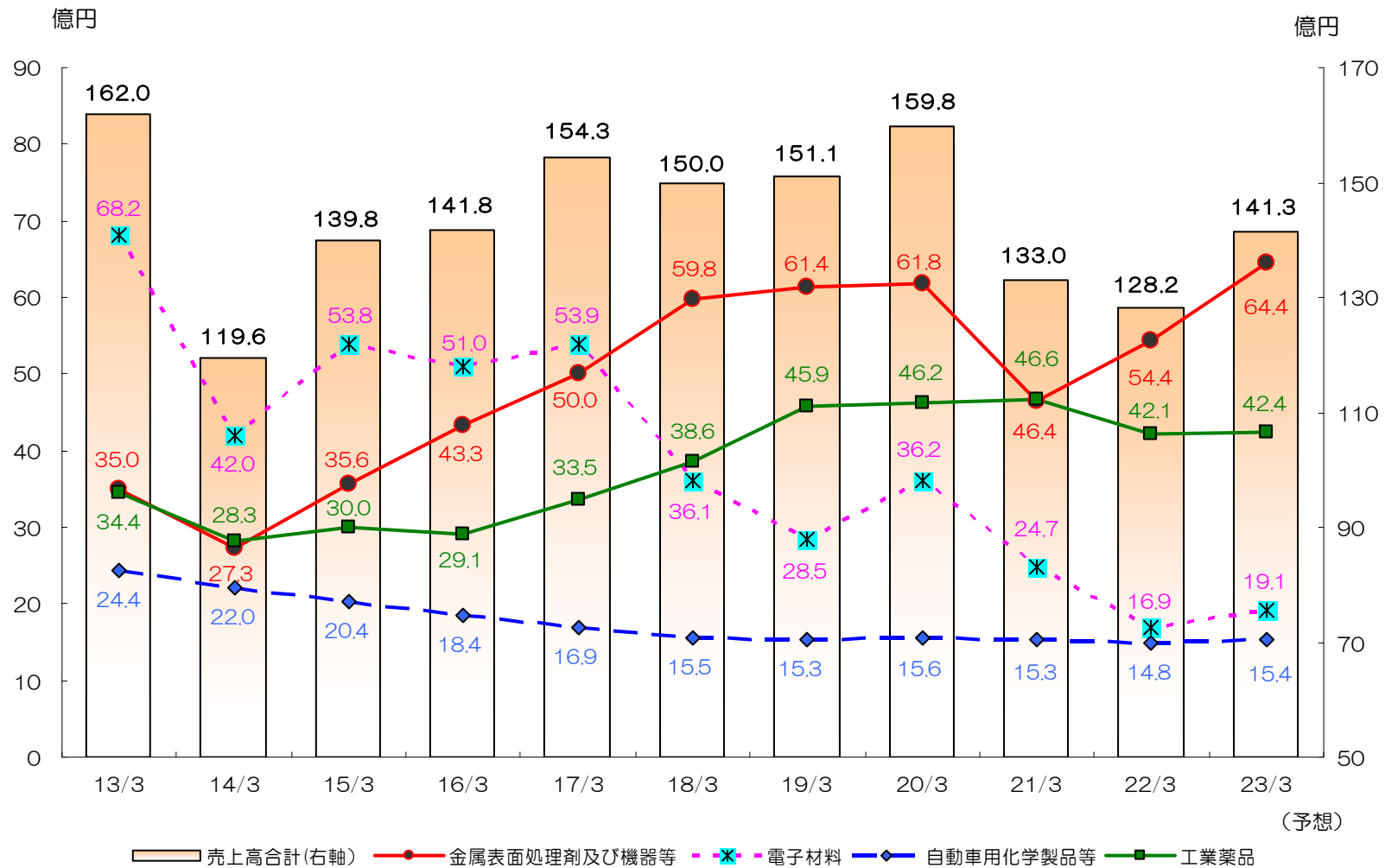
## 技術サポート

- ▶ 技術サポート力を基盤に、技術フォローまで含めた高付加価値サービスの提供

安定した事業基盤、財務基盤に基づくパートナー企業との信頼関係の上で新製品開発・新市場開発を展開しています。

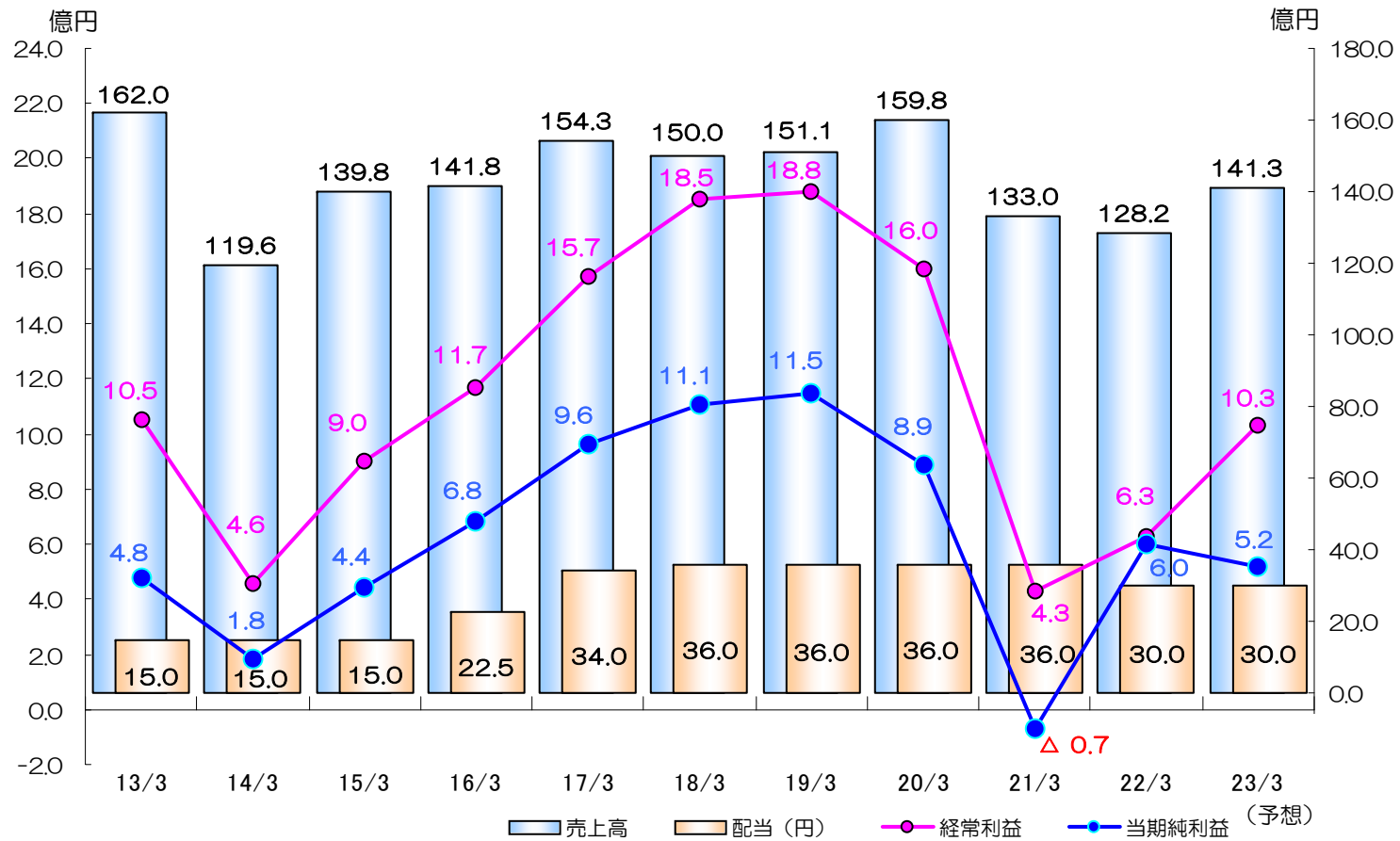


# 営業品目別売上高推移（平成12年度実績～平成22年度予想）



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

# 業績の推移と配当

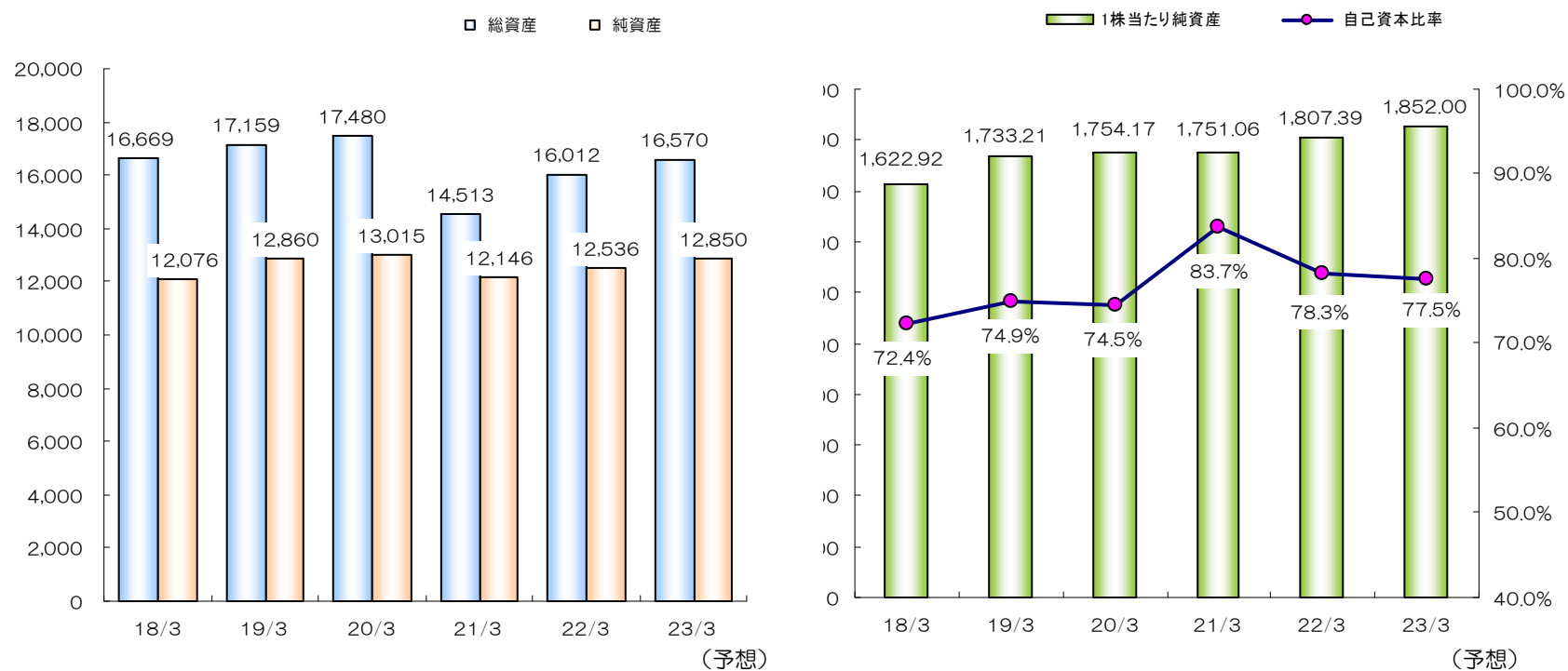


	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3 (予想)
配当性向	23.15%	60.35%	26.44%	25.35%	26.98%	24.81%	23.23%	29.73%	—	34.44%	40.00%

業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

		18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3 (予想)
総資産	【Total Assets】 (百万円)	16,669	17,159	17,480	14,513	16,012	16,570
純資産	【Shareholders Equity】 (百万円)	12,076	12,860	13,015	12,146	12,536	12,850
1株当たり純資産	【BPS】 (円)	1,622.92	1,733.21	1,754.17	1,751.06	1,807.39	1,852.00
自己資本比率	【Equity Ratio】 (%)	72.4%	74.9%	74.5%	83.7%	78.3%	77.5%



業績予想数値につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## ▶ インターネフコンジャパン

半導体パッケージング技術展 特別展示ゾーン

# めっき・エッチングゾーン

出展を予定しております。

- ・ 日時 2011年1月19日（水）～ 21日（金）
- ・ 場所 東京ビックサイト（東展示棟）

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

平成22年11月

石原薬品株式会社

(大証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>